



ナメクジは、どうして塩しおをかけると小さちいくなるの

ナメクジの体からだには皮ひふがない

ナメクジは、人間のようにんげんにしっかりと皮ひふをもっていません。うすい皮かわにつつまれた体からだは、乾燥かんそうしやすいため、ナメクジは体の表面からだ ひょうめんからねん液えきを出して、かわかないようにしています。また、できるだけ湿り気しめ けの多い、じめじめした所ところで生活せいかつしています。日のあたら

ない夜よ中に、動き回うご まわって活動かつどうするのも、体からだを乾燥かんそうさせないためです。

生き物い ものの体からだは水分すいぶんが多く、ナメクジなどは、体の約90パーセントが水みずでできています。

塩しおが水分すいぶんを吸すい出だすから

体からだの皮かわのうすいナメクジに塩しおをかけると、塩しおが皮かわを通とおして、ナメクジの体からだの水みずを吸すい出だしてしまい、ナメクジは小さちいくなってしまいます。塩しおは、つゆどきなどの湿り気しめ けが多いとき、空気中くうきちゆうの水分すいぶんを吸すって、べとべとにとけてしまうほど、水分すいぶんを吸すいと性質せいしつがあるのです。つけ物ものを作つくるとき塩しおをふるのも、キュウリに塩しおをふってきゅうりもみを作つくるのも、塩しおが水分すいぶんを吸すい出だす性質せいしつを、利用りようしています。

人間にんげんの皮ひふなどはじょうぶなので、塩しおがつい

ても、体からだの水みず分ぶんが吸すい出だされるようなことは

ありません。

塩しおで縮ちぢんだナメクジは、また、水分すいぶんを体からだに取とりもどして、元気げんきになる場合ばあいが多いのですが、あまり大量たいりようの塩しおをかけられると、そのまま、死しんでしまうこともあるようです。

(監修・今泉 忠明)

